ご芳志者名及び維持会費納入者名

令和5年度（令和5年8月末）現在

（五十音順、敬称略）

寄附者名

医学科後援会員

赤江　政幸
岡部　和利
川口　賢
神田　辰慶
城下　英治
千々岩　照晃
中島　研
中西　恵
福田　成彦
藤井　一彦
古澤　伸悟
前村　里美

企業等

（一財）化学及血清療法研究所
高橋酒造株式会社
（一財）恵和会

名誉維持会員

山本　哲郎

維持会費納入者名

赤星　一信
浅山　縁
荒木　真佐子
荒武　祐介
有馬　勇一郎
安藤　正幸
安東　由喜雄
井　清司
伊方　敏勝
生田　拓也
池田　晃章
池田　学
池間　宏介
石橋　史成
泉　薫子
一門　和哉
一安　幸治
出田　秀尚
井上　準之助
井上　誠一
井上　武明
井上　俊洋
井上　吉弘
猪股　裕紀洋
岩倉　雄一郎
岩瀬　弘敬
岩本　和也
植田　明彦
上田　厚
上田　昭一
植田　光晴
上塚　昭逸
上原　伊都子
上原　範常
上村　才司
牛島　健一郎
宇宿　功市郎
内野　誠
浦門　操
江上　寛
衛藤　光明
遠藤　文夫
尾池　雄一
魚住　秀昭
大内　清
大久保　安博
大隈　隆之
大島　茂樹
大嶋　壽海
大塚　雅巳
大場　隆志
大場　隆
大林　弘幸
大山　勝郎
岡崎　美知治
緒方　一朗
緒方　義也
岡部　明宏
岡部　和利
岡村　健二
岡村　均
岡本　定昭
小川　修
尾田　正幸
尾田　恭
小畑　敦
甲斐　功一
柿添　豊
笠岡　俊志
片岡　宏一郎
片渕　秀隆
片渕　美和子
勝守　高士
加藤　貴彦
加藤　悌二
鎌田　龍二
神本　行雄
亀田　高正
川口　辰哉
河野　文夫
川村　亮機
神波　大己
菊池　健
北本　康則
木原　信市
木村　貴弘
清原　由起夫
清藤　武三
工藤　正信
久原　のりこ
久米　修一
桑原　邦治
興梠　博次
古賀　幹人
小薗　喜久夫
後藤　慶次
後藤　知巳
小堀　祥三
菰原　義弘
小屋迫　誠
小山　和作
近藤　晶子
近藤　英治
酒井　保之
坂上　拓郎
榊田　裕士
坂口　満
坂田　研明
阪本　徹郎
坂本　康雄
相良　勝郎
佐田　英信
佐田　公範
佐藤　克之
佐藤　立行
眞田　功
志賀　敦
島田　信也
庄嶋　健
鈴島　仁
瀬戸口　敬介
世良　好史
荘田　恭聖
園田　寛
髙木　克公
髙橋　毅
宅本　哲也
竹田　晴生
武本　重毅
田尻　宗誠
田代　和弘
田中　亨治
田中　秀幸
田原　敬二
田宮　一郎
田宮　貞宏
俵　哲
近本　亮
千年　紘子
長　勇
鶴田　一眞
寺崎　久泰
寺本　仁郎
東家　曉
徳永　孝生
中川　和子
長倉　祥一
中島　誠
中村　修
中村　公俊
中山　雅文
永吉　靖央
並河　東志夫
成松　紀子
西　勝英
西川　博
西村　八郎
野田　香菜
野田　賢之介
野村　一俊
野村　耕一
野村　代志子
橋口　治
長谷川　秀
花岡　伸佳
花田　法久
馬場　秀夫
濱田　泰之
林　茂
林　義智
早野　恵子
原口　義邦
原田　栄作
原田　信志
原田　正孝
原田　正公
春野　博一
東　敏信
樋口　定信
平井　俊範
平岡　武久
平田　憲
平田　智美
平野　真子
平山　英雄
廣田　晋一
福島　一雄
福島　敬祐
福島　聡
福田　稠
藤井　一彦
藤枝　敏雄
藤枝　敏行
藤澤　美和子
藤瀬　隆司
藤本　和輝
藤好　建史
二塚　信
古川　昇
古庄　精一
別府　透
細瀧　喜代志
堀江　英親
堀尾　豊
堀野　敬
本田　和揮
本多　邦雄
前田　隆宏
牧　明
牧野　敬史
牧野　昌子
牧野　良造
松井　啓隆
松岡　三正
松崎　博充
松下　和孝
松下　修三
松田　正和
松原　三郎
松村　剛
松本　孝一
松本　志郎
松本　武敏
三浦　克尚
三上　芳樹
三渕　浩
蓑田　耕太郎
壬生　保博
宮崎　知博
宮本　英七
宮本　憲司朗
宮本　健史
宮脇　正行
實吉　拓
武笠　晃丈
向山　政志
牟田　龍史
武藤　宏一郎
村上　雅二
村田　和哉
村中　裕之
村本　順一
村里　雄一
森　修
守　且孝
森　孝志
森岡　基浩
矢澤　克典
保田　周一
保元　徳宏
矢津田　旬二
山口　芳住
山崎　謙治
山崎　浩
山崎　洋二
山下　耕一
山本　秀幸
幸村　克典
湯本　英二
横山　利美
吉里　和晃
吉武　淳
吉原　博幸
吉村　寿博
吉村　力也
米村　奈美
若杉　正司
渡辺　摩耶

団体

（医）寿量会　熊本機能病院
（医）聖粒会　慈恵病院
熊杏会福岡支部
熊杏会八代支部

企業

（株）かもめ印刷

令和4年度掲載訂正

島田　信也

編集後記

令和五年六月の理事会にて、広報担当常任理事を委嘱されました熊本日日新聞社の髙村恭三と申します。熊日に入社後、約三十五年にわたり主に広告・マーケティング畑を歩み、前職では、肥後医育塾公開セミナーの運営にも携わらせて頂いておりました。この三月から熊日電子版などウェブでの情報発信、社内のDX等を担うクロスメディア局の新設に合わせ、その局長を務めております。

今回、医療界以外の人間が、歴史ある振興会の理事を務めることに多少の違和感を持たれた方も多いのではないでしょうか。

ご存じの通り、肥後医育振興会は公益財団法人であり、「熊本県における医学振興に必要な教育・研究の助成及び委託事業を行い、地域医療の向上と県民の健康増進及び日本国内外の医学・医療の進展に寄与する」ことを目的とし「医学・医療情報の提供」等を行うと定款に記してあります。

その中心となる取り組みの一つが、熊日と共催の形で約八十回の歴史を重ねている肥後医育塾公開セミナー及び新聞等を活用した情報発信です。

新聞は、地域や読者と関係性が強く、信頼性の高いメディアです。「正確な医療情報を必要な方にきちんと届ける」という意味では、現在においても最適なメディアであると思います。しかし一方で、デジタル化の進展により情報発信の手法は多様化しています。加えてウェブ上において、医療情報はニーズが高い反面、誤った情報が多数見られるなど好まざる状況にあります。地元の新聞社の人間が振興会の活動に参画させていただく意味、果たすべき役割は、そこにあるのではないかと思います。

去る六月、山本哲郎先生が長年務められた振興会の理事を退任される際のご挨拶で「マスコミを通じて、多くの方々に正しい医療情報を提供する機会を作ったことも一つの成果だ」という趣旨のお言葉を述べられました。その流れを引き継ぎながら、松下先生や片渕先生をはじめ、理事会や評議員会の先生方にご指導いただき、微力ながら熊本の医療界の発展に貢献していきたいと存じます。

最後になりましたが、本ニューズレターの編集にご協力いただきました各先生方、維持会費納入会員の皆様、ご芳志を頂きました方々、また多大なご寄付をいただきました一般財団法人化学及血清療法研究所様、高橋酒造株式会社様、一般財団法人恵和会様に感謝申し上げます。今後とも財団の活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

常任理事（広報担当）
髙村　恭三